

けて分析し、論理的に考える時間がいつあるのでしょうか。

その問いの解決策として、外国ではホームスクーリングを始める家庭がたくさん現れています。ホームスクーリングでは子どもは家で教育を受けます。普通は親や家族が先生になります。子どもは必要なことを短時間で終わらせることができるので、もっと多くの時間を得ることができます。その時間に読書をしたり外に出かけて探検をしたりすることができます。コンピューターの使い方を学んで何かを作ってもいいでしょう。あらゆることが学びの対象になるので、何でも好きなことをすることができます。確立された教育システムを頼みとする人にとっては、それはとても非効率的で冒険的すぎるように聞こえるかもしれませんが、しかし、実は今ではそのような教育がとても大切になってきています。将来人工 intelligence によって多くの仕事が奪われるため、私たちは現存する職業をあてにすることはできません。2013年のオックスフォード大学のある研究によると、今存在する職業のうち47パーセントが人工 intelligence によって取って代わられるということです。人工 intelligence はまだクリティカルシンキングの技術を得ていないので、ほとんどの仕事が単純なものになるでしょう。私たちが将来の雇用市場で生き抜く鍵は考える力であり、仕事を生み出す能力なのです。人工 intelligence が普及した結果、現在子どもである人々の多くは、今はまだ存在しない職業に就くでしょう。例えば、15年前には携帯電話のアプリケーションがいずれ作られるだろうと考える人はいなかったでしょう。しかし、それは今ではとても大きな産業になりました。私たちの未来は今まで以上に予測不可能なものです。私たちはあらゆる物事に対して柔軟である必要があります。教育は必ずしも教室の中で成されなければならないものではありません。いつも机の上でされなければならないものでもありません。色んな方法が存在していていいのです。どの教育が最終的に優れているかということではありません。どんな教育方法にも、強みもあれば弱みもあります。子どもたちが自分の人生をどのようにデザインしたいかということが大切なのです。体を作るために食べ物を選ぶように、知性を養うために脳に入れる物事も選ぶべきなのです。

近年、学校に通いたくないという学生の話をよく耳にします。理由は様々なものがあるのですが、公立学校に行かなくても学生の人生が終わるわけではありませんし、またその学生が学ぶことを止めるわけでもありません。代替教育の機会に至るところに存在しています。人々は学校に行かない子どもたちのことを可哀想だとよく思うようです。また、そういう子どもたちが異常ではないかと問う人もいるかもしれません。もちろん異常ではありません。目標を達成する方法はいくらでもあります。子どもたちは自分が選んだ道から、自立心や自分自身を誇りに思う心を学ぶことができます。未来に向け

て他の皆と同じ道を歩む必要は無いのです。学校の外の世界に留まることを実際に選択する子どもたちもいます。それは必ずしも学校に行くことに問題があるからではなく、人生に何か違う物や具体的な何かを求めているからです。私たちが皆なぜ勉強をするのか考えてみましょう。何のために私たちは自分自身を教育するのでしょうか。私たちは学校に行くために勉強をするのでしょうか。勉強をするために学校に行くのでしょうか。または学校の有無にかかわらず、いずれにしても私たちはどんな環境でも学び続けることができるのかもできません。進化し続ける科学技術が、私たちの技能の価値を年々損なわせ続ける時代に、私たちは与えられた環境をあてにすることはできません。私たちは自発的に自分の意志で、自分自身を進化させ始めなければなりません。

私たちはこんなにも素晴らしい世界に生きています。近年オンライン上で大抵のことは学べますし、地球の反対側の世界の人々と会って交流をすることもあります。毎年新しい仕事で作られ、消えていきます。私たちに必要なもの、これから必要になるものはこの瞬間にも変わり続けています。しかし、いつの時代にも私たちに必要なものが一つだけあります。それはクリティカルシンキングです。何が本当に大切で、何がそうでないのかを選び続けることができるように、そして世界のどのような人々とでも平和な関係を築けるように、私たちにはクリティカルシンキングが必要なのです。どんな方法であれ、論理的に考える術や他者に敬意を払うことを学ぶことができれば、教育はどこでされてもいいのです。「効率」を正しく理解し、人生で本当に価値のあることを見つけ出せば、私たちはもっと素晴らしい未来を手にするでしょう。

